

手嶋 瑞季さん(安岐中3年)が県知事賞を受賞

第33回大分県「小さな親切」作文コンクール中学生の部で、最優秀賞の県知事賞に手嶋瑞季さん(安岐中3年)の「心からの親切」が選ばれました。また、全日本「小さな親切」作文コンクールでも入選しました。

なお、市内関係者の入賞者は次のとおりです。(敬称略)

小学生の部

大分県教育長賞

西田たかし(武蔵東小3年)

中学生の部

大分県知事賞

手嶋 瑞季(安岐中3年)

大分県議会議長賞

加藤 花菜(安岐中1年)

大分県教育委員長賞

伊藤 優菜(武蔵中1年)

大分県教育長賞

徳丸 大樹(武蔵中2年)

大分県本部会長賞

徳丸 栞(武蔵中1年)

心からの親切(原文のまま)



手嶋 瑞季
「情けは人のためならず」ということわざがあります。人にかけて情けはめぐりめぐって結局自分の元にかえってくる、という意味です。

確かに、人に親切にされると優しい気持ちになり、他の人にも親切にしたいくなります。そうやって親切は人から人へ伝わっていくのでしょうか。

親切は、円満な人間関係をつくるためになくてはならないものです。

しかし、本当に相手のためになる親切をするのはとても難しいことです。

私が小学生のころ、授業で絵を書いたことがあります。自分の絵が早く完成した私は、友達の絵の色塗りを手伝っていました。すると先生は私に、「それは親切にはならないよ。」とおっしゃいました。友達のため、と思って手伝っていた私は、その言葉にショックを受けました。

小学生の私には、自分の行為がなぜ親切にならないのかがわかりませんでした。しかし最近になってやっと感じるようになったことがあります。

親切とは、相手のことを本当に思いやる気持ちのことなのだと思います。友達が課題が終わらず困っているとき、手伝ってあげるの親切でしょうか。課題は、その人に知識や技術を身につけさせるために与えられたもの

です。勝手に手伝わったりすれば、その人からそれらを学ぶ機会や、課題を自力で終わらせることで得られる達成感まで奪ってしまうことになりません。

時には、何もせず見守るといことが親切になる場合もあるのだと思います。

つい何年か前に、自殺しようとして線路にとびこんだ人を助けようとして警察官の方が亡くなる、というできごとがありました。

それは私に衝撃を与えた、今でも心に残っている事件です。

自分の身を犠牲にしても他人のために力を尽くす人がいることに深く感動しました。

規模は違いますが、中心となる感情は人を助けるときも人に親切にするときも同じものだと思います。どちらも何かしてあげたい、人の役に立ちたいという思いから始まっています。

意識して親切なことをしようとする、たいていは空回りしておせっかいになってしまいます。

人に親切にする上で大切なことは、見返りを求めない心をもつことだと思います。何かしてあげたい、と思ったときに自然と行動、それこそが心からの親切なのだと思います。

親切は、する人もされた人も優しい気持ちになる行為です。いつか、知らぬ他人であっても親切にするのが普通である、そんな世の中になればいいなと思います。

「小さな親切」運動国東市支部が全国表彰

平成20年度「小さな親切」運動全国表彰式(11月22日(土)・東京都)で「小さな親切」運動国東市支部(都留俊一郎支部長)が、「小さな親切」運動賞(団体の部)を受賞しました。

同支部は、平成3年に発足した武蔵町支部が、国東市誕生とともに国東市支部として平成19年9月に発足。武蔵町の宣言都市としての精神を市内全域にひろげようと「小さな親切」運動を展開しています。

都留支部長は「これからも、地域の中でお互いが助け合うことで、温かな住みよい地域をつくる「小さな親切」運動を市内に広めていきたい」と話しています。



▲12月16日(火)、野田侃生市長へ報告に訪れた(左から)木戸昌夫副支部長、都留俊一郎支部長、野田市長、綾部静男相談役